

大腸CT検査（CTコロノグラフィー）説明書

1.検査目的

大腸CT検査（CTコロノグラフィー）は内視鏡を用いることなく、CTにて撮影した大腸の「形状」及び「内腔（内部の状況）」をコンピューター化された画像を用いて大腸病変を発見する最新の検査法です。この検査は大腸腫瘍の診断を目的としています。

2.検査方法

最初に大きな痔や肛門病変がないかどうかを調べるため、直腸診を行います。その後肛門から大腸内に空気（炭酸ガス）を注入するためのチューブを挿入します。大腸内をよく観察するため、大腸を十分に膨らませた状態でCT撮影を行います。仰向け・うつ伏せの2体位で、それぞれ約10秒程度の撮影時間です。検査中は肛門を軽く閉めておいて下さい。検査は10分程度で終了いたします。大腸内に空気を注入する為、検査後まれに、お腹が張ったような軽い痛みがある場合があります。検査後はおならを我慢せず積極的に出して下さい。

3.医療被ばくについて

CTを使用する検査のため、放射線被ばくがあります。CTコロノグラフィーに必要な線量は、1体位につき数mSvであり、1年間に自然界から浴びている線量（2.4mSv）より若干多い程度です。健康を害する線量ではありません。

*妊娠中あるいは妊娠の可能性のある方は、大腸CT検査を受けることはできません。

4.注意事項

検査前後で日常生活や仕事に制限はありませんが、下剤服用によりお腹がゆるくなることがあります。大腸CT検査では、組織検査（生検）やポリープの治療はできません。また、お腹の不快感や軽い痛みが続くようであれば、しばらく休んでからご帰宅していただきます。高度狭窄がある場合は、下剤の服用やガス注入により腸穿孔の可能性がありますが内視鏡の危険性を超えるものではありません。

5.大腸CTの精度

6mm以上の隆起型腫瘍はほぼ100%検出可能ですが、前処置に大きく左右され、また、平坦型の腫瘍や5mm以下の小さなポリープの検出能は内視鏡検査と比べ劣ります。

6.料金

保険診療下、3割負担の場合において、検査料・前処置薬剤・検査食で約1万5千円です。

下剤は、紹介医療機関で処方をお願いします。検査食は、自費購入となります。

7.検査当日

2階ロビーで受付。診療情報提供書、同意書および保険証、放射線画像などを持参の上、朝7:45から8:00までに来所して下さい。

*検査の所要時間は、説明から検査終了まで約60分を要します。

8.検査結果の送付

検査日翌週以降に紹介元医療機関へ画像CD、画像診断報告書などを紹介医療機関宛に送付しますので、紹介元医療機関で結果説明を聞いてください。

9.検査キャンセルについて

検査キャンセルの事態が生じた場合は、早急に当財団（37-3313）にご連絡下さい。